

## 平成28年度

# 京都府学力診断テスト（中学校2年生）の結果の概要について

平成 28年 12月 21日  
学 校 教 育 課

- 1 実施日 平成28年10月26日（水）
- 2 実施対象 府内中学校（96校）特別支援学校（4校）
- 3 実施教科及び受検者数 国語 9687人 数学 9,695人 英語 9,695人
- 4 問題内容及び問題数
  - (1) 基礎・基本に関する問題・・・20問
  - (2) 活用に関する問題・・・5問
  - (3) 質問紙調査・・・51問（学校独自に設定できる質問2問を含む）

平成28年度京都府学力診断テスト（中学校2年生）を実施しました。学力調査と質問紙調査の結果について概要を報告します。

### 今年度の状況

#### ■ 国語・数学・英語とも基礎・基本に関する問題はほぼ定着しているが、活用問題には一部の領域に課題が見られる。

- ・国語 ◆「話すこと・聞くこと」の領域は、定着しており、「書くこと」及び「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域はほぼ定着している。  
◆「読むこと」の領域に一部課題がある。
- ・数学 ◆「数と式」の領域は定着しており、「関数」の領域は、ほぼ定着している。  
◆「図形」と「資料の活用」の領域に一部課題がある。
- ・英語 ◆「聞くこと」及び「読むこと」の領域は、ほぼ定着している。  
◆「書くこと」の領域に一部課題がある。

### 前年度との比較

#### ■ 正答数の相対度数分布からは、国語において学力低位層が減少して基礎学力の定着が進んでおり、数学は低位層・上位層がやや増えた。英語は読解力を要する問題を増やしたために、平均正答数が下降しており、とりわけ活用の問題に課題が見られる。

#### ■ 話し合い活動等を取り入れた授業の改善が進んでいる。

「授業では、自分の考えを発表する機会が与えられている」（番号1）の質問に対して「当てはまる」と回答した生徒の割合は60.9%で、昨年度より6.0ポイント増加した。

また、「授業では、みんなで話し合う活動をよく行っている」（番号2）の質問に対して「当てはまる」と回答した生徒の割合は48.0%で、昨年度より11.0ポイント増加した。

#### ■ 家庭での学習習慣の定着については、改善傾向が見られる。

平日の家庭での学習時間（番号20）については、「2時間以上」の生徒の割合が昨年度よりも2.0ポイント増加し、「30分未満」の生徒の割合は5.0ポイント減少した。本調査に回答した生徒の中学1年生4月の時点と比べると、「2時間以上」の生徒の割合が2.7ポイント増加している。

また、「家で学校の宿題をしている」（番号15）の質問に対して「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」と回答した生徒の割合は77.6%で、昨年度より2.5ポイント増加した。「自分で計画を立てて勉強をしている」（番号16）の質問に対して「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」と回答した生徒の割合は51.8%で、昨年度より1.3ポイント増加した。

#### ■ 規範意識や自尊意識等については、やや改善傾向が見られる。

「学校や社会のきまりや規則を守っている」の質問（番号42）に、「当てはまる」と回答した生徒の割合は54.8%で、昨年度より3.4ポイント、26年度より9.1ポイント増加した。

「自分には、よいところがあると思う」（番号47）の質問に、「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」と回答した生徒の割合を合わせると62.3%で、昨年度より2.9ポイント、26年度より3.2ポイント増加した。

#### ■ 携帯電話やスマートフォンで通話やメール、ゲーム等を毎日2時間以上する生徒が多い。

自分だけの携帯電話やスマートフォンを持っている生徒の割合（番号30）は70.1%であり、昨年度の66.3%より3.8ポイント増え、年々増加し続けている。

担当課	学校教育課
電話	075-414-5831

## 改善プラン ～指導を強化する事項～

### 府学力診断テストや全国学力・学習状況調査の結果分析を活かした教育活動を展開し、質の高い学力をはぐくむ

- 児童生徒の学ぶ意欲を引き出し、個に応じた指導の一層の充実を図る等の授業改善を進める。
  - ・思考力・判断力・表現力等をはぐくむために、授業の中で言語活動（特に「書くこと」や話し合い活動）を効果的に位置付け、課題の発見、解決に向けた主体的・協働的な学びを充実させる。
  - ・授業の「めあて」の提示と「振り返り」を重視し、学ぶ意欲を引き出す授業をする。また、「子どものための京都式少人数教育」の更なる充実を図り、児童生徒一人一人に応じた指導の一層の充実を図る等、校内で組織的な指導方法の工夫改善に取り組む。

◆「指導方法の改善に関する研究協議会」「中学校教育課程京都府研究大会」「京都府学力診断テスト活用講座」を実施

- 児童生徒の学力向上を小中連携の視点で捉え、9年間を見通した指導を行う。
  - ・京都府学力診断テスト(小4・中1・中2)及び全国学力・学習状況調査(小6・中3)の結果から、児童生徒の学力実態や家庭における生活状況等の特徴や課題を把握し、小中で各教科の課題を共有し、小中連携の視点で組織的に学力向上に取り組む。

- 家庭学習の一層の定着を図る。
  - ・各教科でノート指導や、次時の授業に結びつけた宿題・予習を提示するなど、家庭学習の充実につながる指導を行う。
  - ・基本的な生活習慣の確立や学習習慣を身に付ける取組を家庭（保護者）と連携して、さらに充実させていく。

- 規範意識や豊かな人間性をはぐくむために、「道徳の時間」の充実や「法やルールに関する教育」を進める。

◆「道徳教育の進め方 京都式ハンドブック」「『法やルールに関する教育』ハンドブック」（府総合教育センターHP）の活用

- 自尊感情を高める指導の充実
  - ・授業をはじめ学校生活全体をとおして努力の事実を評価し、周囲からの温かい愛情や信頼、期待を感じさせることにより、「包み込まれているという感覚」をはぐくみ、児童生徒の自己肯定感や自己有用感を高める。

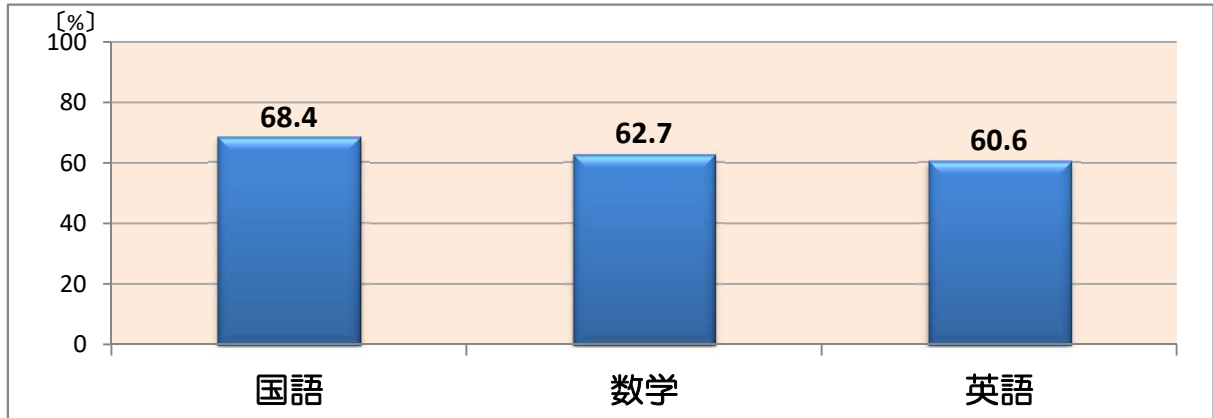
- スマートフォンや携帯電話に潜む危険性や家庭でのルール・使い方等について保護者への啓発を進める。

◆「保護者のみなさまへ 家庭で話そう！ ～ケータイ利用のルールとマナーについて～」リーフレットの配布

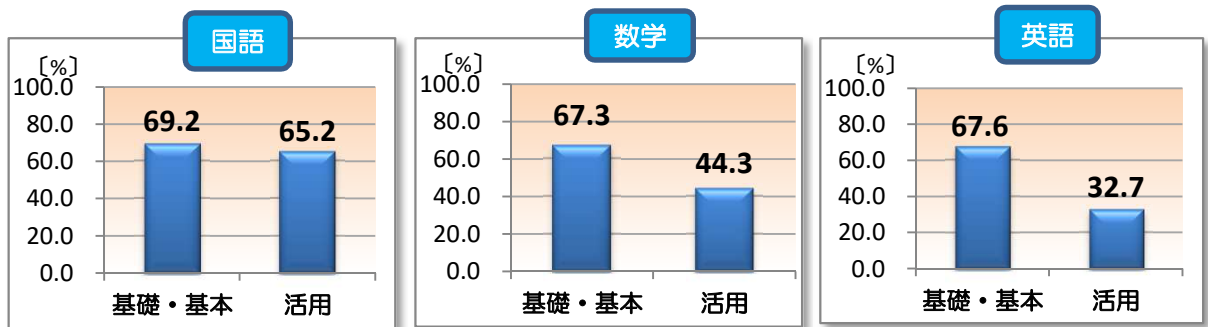
5 結果の状況（京都府全体）

(1) 教科別

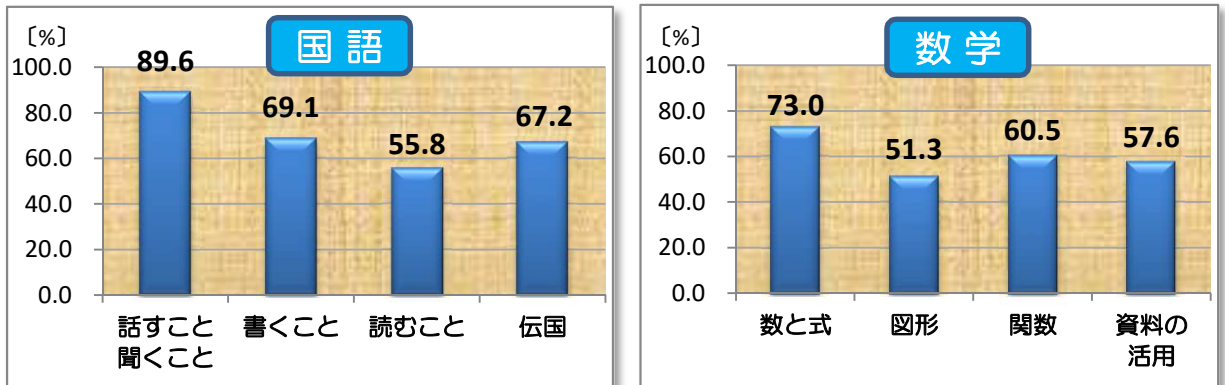
※数値はすべて正答率（100%）



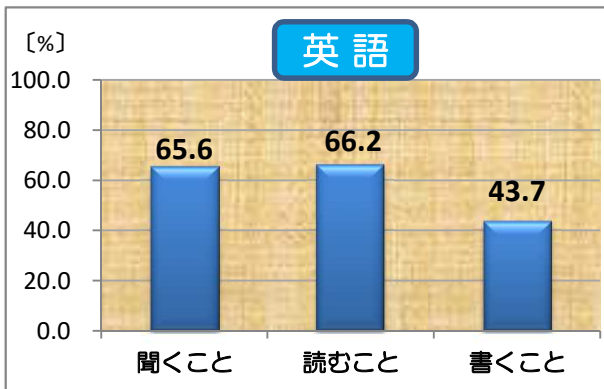
(2) 問題類型別（基礎・基本に関する問題 活用に関する問題）



(3) 領域別



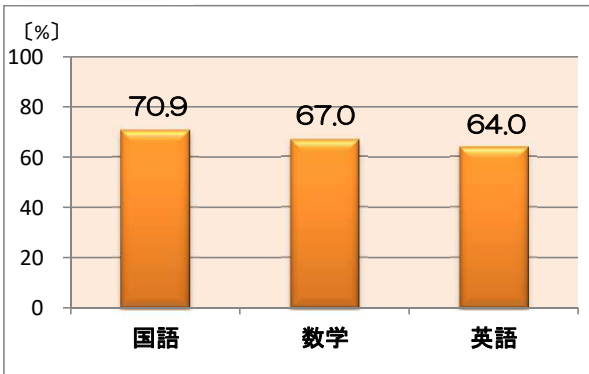
\*伝国…伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項



(4) 教育局別平均正答率

**乙訓**  
(8校)

国語 ( 1,268 人 13.1% )  
 数学 ( 1,268 人 13.1% )  
 英語 ( 1,267 人 13.1% )



**山城**  
(35校)

国語 ( 4,638 人 47.9% )  
 数学 ( 4,644 人 47.9% )  
 英語 ( 4,647 人 48.0% )



**南丹**  
(15校)

国語 ( 1,109 人 11.4% )  
 数学 ( 1,109 人 11.4% )  
 英語 ( 1,109 人 11.4% )



**中丹**  
(22校)

国語 ( 1,650 人 17.0% )  
 数学 ( 1,651 人 17.0% )  
 英語 ( 1,650 人 17.0% )



**丹後**  
(13校)

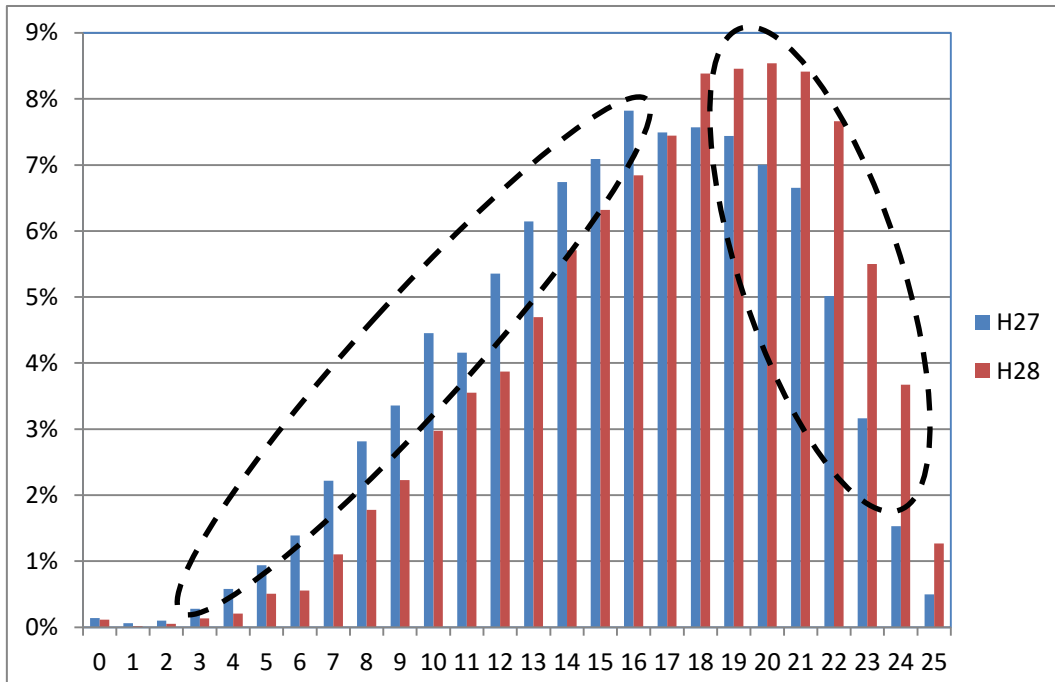
国語 ( 860 人 8.9% )  
 数学 ( 861 人 8.9% )  
 英語 ( 860 人 8.9% )



( ) は、  
 (受検者数 府全体の受検者数に占める割合) を表す。

## 国語 相対度数分布 H27—H28

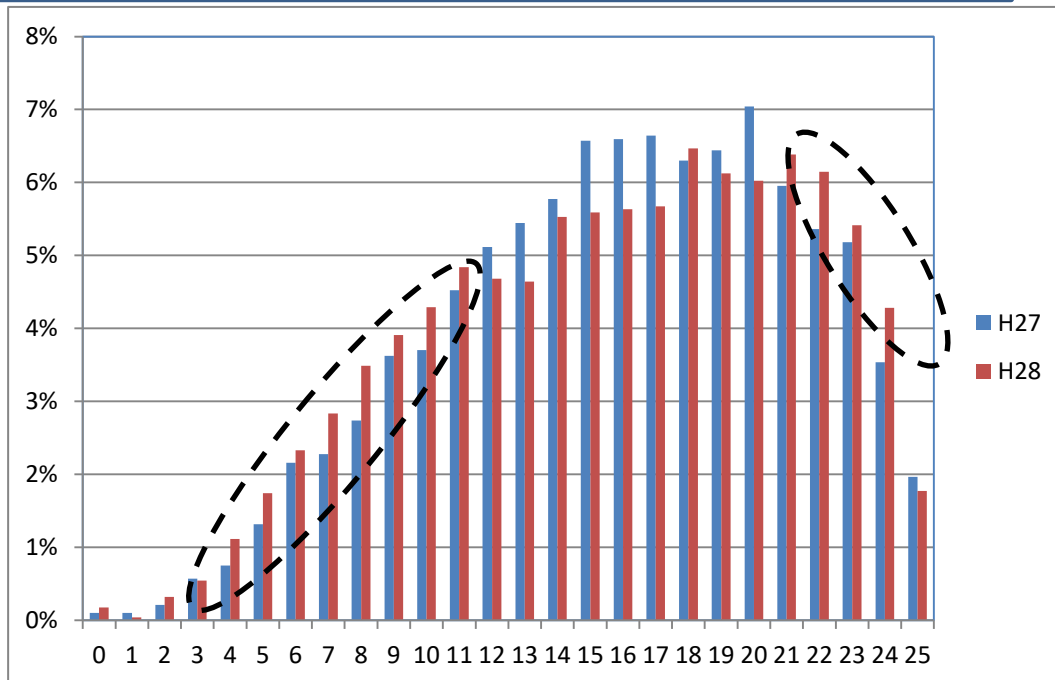
平均正答数 15.6—17.1



平成28年度国語は、前年度と比べると、活用の問題において高得点層が増加した。基礎・基本の問題の難易度は変わらない中で低得点層がやや減少しており、基礎学力の定着が進んでいる。

## 数学 相対度数分布 H27—H28

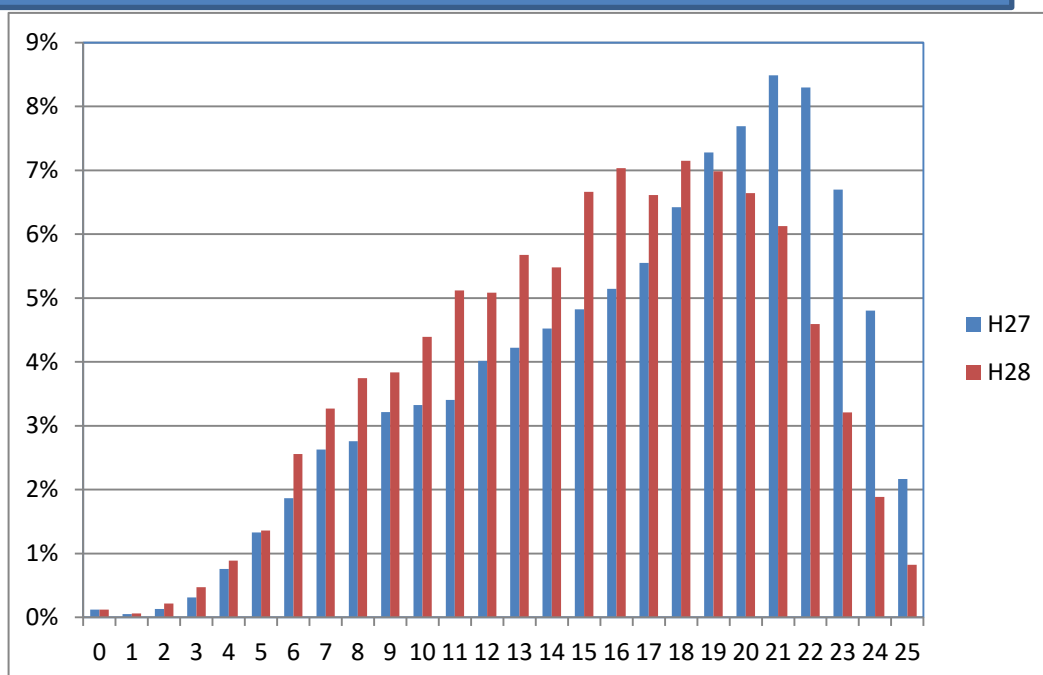
平均正答数 15.8—15.7



平成28年度数学は、基礎・基本の問題、活用の問題ともに難易度が変わらない中で、前年度と比べて低得点層と高得点層がやや増加している。

## 英語 相対度数分布 H27—H28

平均正答数 16.7—15.2



平成28年度英語は、活用の問題を中心に読解力を要する問題を増やしたために問題の難易度が増したと考えられる。そのため高得点層は減少したが、低得点層はそれほど増えていない。